



みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



今月の
ひと

団結力で復活した
ミニテニス・チーム

全国の仲間から受けた支援に
今年は全勝で恩返し

ミニテニスをご存知ですか。これは、専用のラケットとボールを用いて、バドミントンと同じ広さのコートで行う屋内テニスです。

沖野中学校体育館に集まるのは「荒浜ミニテニス愛好会」のメンバーです。一九九八年に荒浜学区民体育振興会ミニテニス部として設立され、震災後に現在の愛好会として再スタートしました。

二〇一〇年三月には、全国から有力チームを招いて交流大会を開催するまでになりましたが、その一年後に東日本大震災がおきました。

身一つで避難したメンバーに全国の仲間から続々と支援物資や義援金が届きました。部長の菅野儀仁よしさんは「全国各地から多くの支援をいただきました。それまで、自分たちの楽しみで続けていたミニテニスでしたが、同じスポーツをする仲間がありがたさを身にしみて感じました。おかげさまで、今年が仙台市内の大会全てに優勝できました」と、語ります。その強さを問うと「やっぱり荒浜の団結力でしょうか。そして、夫婦や親子で楽しみながら継続しているのが強みでしょう」と、答えてくれました。

2013

12月

Return home

我が家、再び

現地再建レポート

現地再建、集団移転、独自移転、復興公営住宅入居。恒久的な住まいの確保にはさまざまな選択肢があります。今回の特集では、浸水区域で現地再建を果たした方の状況をレポートしました。



防災にこだわった新築 四世代が共に暮らす家

種次地区、県道塩釜巨理線からほど近い南番古で再建を果たした相澤さんご一家。今年七月に完成した新居でお婆ちゃん、お父さん、若夫婦とその長男の四世代が一緒に暮らしています。震災前、敷地内にあった二軒の住居は、土台だけを残し全て流失。再建にあたっては、宅地を二・五メートル盛りし、住宅は鉄骨構造にするなど、津波対策にこだわりました。「婆ちゃんが一人のとき、避難所にいけなくても、二階に上がって避難できるように考えた」とご主人の健太さん。今年結婚をし、長男を授かったなかでの住宅再建。「決して安くはないけど、安全を考えた選択」だといいます。



<種次>

相澤さん宅

また現地再建を選択するには、長年地域で商店を営んできたお父さん・宏俊さんの「この土地に住み続けたい」という強い思いがありました。以前から「何をしてもいいけどここに住め」と言われていた健太さんだけに、移転の考えはなかったといいます。近隣では相澤さんの自宅再建が呼び水となり、今後戻ってくることを決めた方もいるとのこと。地区再生への第歩を踏み出した相澤さんご一家です。

長年培った腕が頼り 自力で取り戻した我が家

長年建設業に従事する堀江さんもりえは、浸水被災した自宅を自らの手で修繕しました。

震災から三日後、荒浜新田東の自宅を確認した際に「時間をかければ直せる」と確信したそうです。その後、休日ごとに仮設住宅から自宅へ通い修繕を重ね、二〇一三年春からは長期休暇をとり二カ月半をかけて、居住スペースの修繕が完了

了。七月には家族揃って自宅へ戻り生活を始めています。

経費を抑えるため、また仕事柄、腕に覚えがあったことから、自力での修繕を決意した守二さん。「家族や知人など多くの人の力も欠かせなかった」といいます。奥様や息子さんたちの手伝いはもとより、顔見知りの業者さんに直接資材の注文をできたことや、ノウハウを享受できたことが助けになりました。さらに、修繕作業中は隣組から「早く帰ってこい」と声をかけられたことも励みになりました。皆で手をかけて取り戻した我が家の住み心地は「心が和む」と守二さん。車庫や倉庫など手つかずの部分はあるものの、時間をかけて少しずつ修繕していく予定です。

<荒浜>



堀江さん宅

<種次>



相澤さん

左から奥さんの佳奈さん、健太さん、お婆ちゃんおばあちゃんの直さん。健太さんの膝に抱かれているのは4月に誕生した長男はるきの青輝くん。この日お仕事で不在だったお父さんの宏俊さんは青輝くんを「五代目」と呼んで、相澤家の将来を託しています！

人の輪で修繕 居久根に囲まれた屋敷

二木笠神の大きな居久根に囲まれた家に住むのは、柴崎信二さん。農家である柴崎さんにはもう一つ、通信制大学で学ぶ大学生としての顔がありました。震災時、納屋や倉庫は二軒ほど、自宅は二軒ほどの浸水被害に遭いました。このとき、駆けつけてくれたのが大学の先生や学友でした。一カ月、延べ九十七人の手で、自宅床下の泥かきや、畳・障子の張り替えなどの修繕作業が行われ、地域で二番早く自宅での生活を再開しました。

地域再生の一步は そこに住む人から

それぞれに異なる状況下で自宅での生活を再開した三軒のお宅ですが、この選択の根本には地域への愛着があふれていました。現地再建で取り戻したのは生活だけではなく、地域の営みでもあります。沿岸部では地域の再生に向けて少しずつ歩みを進めています。

<二木>



堀江さん

左から三男の徹さん、守二さん、次男の栄さん。撮影時は不在でしたがお母さんの末子さんと長男の守二さんの5人家族です。この日は近くにある守二さんの実家の土地に土を入れ、球根を植える作業中でした。春にはチューリップ畑になる予定です。



<荒浜>

柴崎さん

白菜の収穫を終え、一息入れる柴崎信一さん。取材中も度々ご近所さんが訪れ、柴崎さんと言葉を交わす姿が見られました。「冷やかしに来てるんだ」とおどける柴崎さんですが、ご近所さんが立ち寄る交流スポットになっています。

「まだまだ直さないといいけないところがいっぱいある」と柴崎さん。しかし、津波に浸かった農機やトラクタの買い替えを優先したため、自宅を完全に修繕するための金銭的な目的が立っていません。この家の象徴的な居久根についても「枯れた木は切ったけど、他はそのまま手をつけていない」といいます。

現在、地域のおよそ百世帯中、戻っているのは三割程度。しかし、人のつながりは

<二木>



柴崎さん宅

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

●1日(火) ゼーンぶ野菜のフルコース!
(荒井・農家レストランもろや)



産直広場ぐるぐるが企画した「皆で楽しく復興ランチ」。民話の語り部に大笑いした後で、野菜料理が次々に出てきました。出席者は、珍しいカボチャに目を丸くしていました。

●3日(木) あの頃に戻ったような、懐かしさ
(七郷中央公園仮設住宅)



集会所で“昭和の仙台”8ミリで楽しむ茶会が開かれました。荒浜の漁業を扱った映像には、知り合いや親戚の顔が登場し「〇〇おんつあんだっちゃん」と盛り上がりました。

●4日(金) 何色? 荒浜の染物
(荒浜)



荒浜の松林で植物を品定めするのは、東北工業大学の先生、学生さんと仙台市野草園の伊深園長たち御一行。荒浜で自生している植物を使って染物をするのだそうです。

●6日(日) 名取川が結ぶ、人と木の交流
(太白区・秋保工芸の里)



「秋保工芸の里まつり」に於てお邪魔しました。工房「埋もれ木」では「仙台荒浜流木細工展」として深沼海岸の流木を使ったアクセサリを展示。来場者の関心を集めていました。

●9日(水) 力作ぞろいの作品展
(青葉区・仙台市福祉プラザ)

8、9日の両日、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方による手づくり品の展示会「作品展・演奏会～復興への願いⅡ～」が開かれました。昨年に引き続き2回目の開催となった今回は、中核支えあいセンターとともに、被災された方々が自ら実行委員をつとめました。会場には編み物などの手芸品、書画や写真のほか、自分史なども展示され、訪れた方は多



くの作品に興味深く見て回りました。また、この日は演奏会が開かれ、三味線演奏のアンコールで斎太郎節が演奏されると会場に“揉み手”の手拍子が響きました。

●12日(土) われら即席合唱団
(荒井7号公園仮設住宅)



学校法人三島学園の先生と学生さんによって開かれた唱歌と童謡を楽しむイベント。途中で荒井町内会会長も特別参加し、即席混声合唱団で懐かしい曲を歌いました。

●13日(日) さんま・いかまつり
(日辺グラウンド仮設住宅)



クラブハウス前で焼かれたサンマから盛大な煙が上がリ、女性陣が下ごしらえをしたイカも並ぶと、おいしそうなお味が満ち。大人も子どもも、笑顔で完食しました。

●20日(日) おまつりだもの。雨二モ負ケズ
(若林区役所)



あいにくの雨空にもかかわらず、多くの来場者でにぎわった若林区民ふるさとまつり。作品展では、七郷小学校、荒浜小学校、東六郷小学校の児童が制作した垂れ幕が掲げられていました。

読者から
ひとこと

●震災後すぐに建て売り住宅を買って移転したけど、毎日三本塚の自宅敷地の畑に通って作業しています。しばらく先になると思うけど、移転した家子どもたちに譲って、元の家に戻って暮らしたいですね。
若林区/K・Sさん

●震災で失くした携帯電話に、当時のいろいろな方から私を案じてくれるメッセージが入っていました。まさか残っていると知らずに、つい最近になってそのメッセージを聞きました。改めて感謝し、温かな気持ちになりました。
宮城野区/佐藤美枝子さん

●最近、イベントに出てくる人たちが少なくなったような気がするのよね。土曜日や日曜日の休日なんかは特に。せっかくなので来てくれるボランティアの方たちにも悪いとは思ってないけど…。やっぱり生活自体が、震災前の日常に戻りつつあるのかも少し寂しいね。再建はまだだね。
太白区/Kさん

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体が話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜移転
まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

十月二十五日(金)定例会議

内容

- 住宅再建に関するアンケートの封入作業
- 仙台市からの報告

当日の様子

住宅再建に関するアンケートの封入作業を行いました。また、これからの企画として、ハウスメーカーを招いた説明会の実施について話し合われました。



問い合わせ先
代表 末永薫 (問い合わせがある場合は直接定例会場においてください)
定例会議
第2・4金曜日19:00~
サンピア2F 会議室4

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って文化の再生を目指す住民有志が中心となって活動しています。

十月十四日(月・祝) 海岸清掃と定例会議

内容

- 深沼海岸清掃活動
- 定例会議

当日の様子

ボランティアを含めて約三十名が深沼海岸の清掃をしました。その後はバーベキューをしたり、パングの剥製とご対面したり、楽しいひと時を過ごしました。



問い合わせ先
代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議
毎月第2日曜日14:00~
深沼海岸旧バス停前 里海ロッジ

荒浜復興公営住宅
(戸建) 推進協議会

戸建の復興公営住宅を希望する方々の勉強会です。

十一月十二日(月)意見交換会

内容

- 要望書案の検討

当日の様子

仙台市へ提出する要望書案の検討を行いました。荒井東地区の復興公営住宅(戸建)では、予定している二十二区画のうち十五区画に申し込みがありました。住宅が建築される前に、入居希望者の要望事項をまとめる作業を行いました。会としては、十一月中旬に要望書を仙台市に提出したいと考えており、参加者は熱心に話し合いを行いました。



問い合わせ先
代表 渡辺勝江 (問い合わせがある場合は直接会場においてください)
会合は随時開催
荒井小学校用地仮設住宅集会所

東六郷移転推進協議会

東六郷の浸水区域から六郷地区への集団移転に向けて活動しています。

十月十九日(土)全体会議

内容

- 軟弱地盤対策について
- 事業スケジュールの確認

当日の様子

仙台市の開発調整課より軟弱地盤の対策を求められていることが報告されました。擁壁と住宅建物下部への対策が必要なものの、住宅建物に関して事前の対策案提出が困難になることから、仙台市と相談しながら案を詰めていくことが確認されました。スケジュールについては順調に進めば二〇一四年六月末宅地引き渡しを目標に事業を進めるとの報告がありました。



問い合わせ先
代表 落合義光 090-4882-3368
会合は随時開催

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください



お手玉サークルたんぽぽの お手玉遊び支援

東日本大震災から二年半あまり。今、さまざまなかたちで支援が続いている方々がいます。支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。被災地で取材を続ける情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

「それじゃあ、今度は曲に合わせてお手玉をしましょう。ハイッ！と言ったら向かい合っている人と交代ですよ」

若林区にあるサンピア仙台の一室で十月末、お手玉サークル「たんぽぽ」による、被災された方を対象にしたお手玉教室が開かれました。震災後四度目の集まりで、指導役の「たんぽぽ」代表、菊池治枝さんの高らかな声が響き渡り、十五人ほどの女性が約二時間、和気あいあいと昔ながらの遊戯に興じていました。

女性たちは、「たんぽぽ」のメンバー以外は全員荒浜地区出身で、現在は借り上げ民間賃貸住宅で暮らしています。「かつちゃん、あやちゃん、せつちゃん」。菊池さんは、仲良しの友だちに接するように、全員に下の名前と呼びかけます。「参加してくれる皆さんの名前、もうちゃんと

覚えましてよ」と笑顔の菊池さん。童謡など広く知られた曲に合わせて、それぞれお手玉を手で操ったり、向かい合って手渡し合ったり。なんだか皆さん、童心に帰ったような様子でとても楽しそうです。



車座になってお手玉を楽しむ参加者たち

場所を取らず手軽に楽しむことができるお手玉は、適度な運動になり、脳の働きを活発にしてくれます。菊池さんは以前、自身が見舞われた大病を機にその魅力を再発見して、二〇〇七年にサークルを発足させ、仙台市などで普及活動を始めました。震災後、その経験を生かし、お

手玉遊びを通じた支援にも取り組んでいます。参加者たちは、荒浜地区ではご近所さん同士で顔見知りの間柄でしたが、それぞれ別々の地域で生活しているため頻りに顔を合わせる機会が少なく、お手玉教室が貴重な再会の場にもなっています。初めて参加したという二瓶美恵子さんは、「友だちに誘われて来たけれど、また教室が開かれたら参加したいです。菊池さんは面白くお手玉を教えてくださいませんか？」

と話しました。「そんな真面目に愚痴とか悩み事は話せないけれど、やっぱりこうやって集まると楽しいんだ」と話すのは、初回から欠かさず参加している末永利子さんです。菊池さんは話します。「教室での二時間を、皆さんが、一瞬でもいいから心配事を忘れて笑っていられるような時間になりたいんです。お手玉はすぐに夢中になれるのでいいですよ。お手玉教室開催の希望があれば、可能な範囲でうかがいます」



参加者を見守る「たんぽぽ」代表菊池治枝さん

お手玉教室の開催日程
参加無料、直接会場へ
毎月第2火曜 河北・TBCカルチャー教室
第4火曜 河北・TBCカルチャー教室
第1水曜 宮町教室(青葉区宮町5-2-104)
第1金曜 宮町教室
第3木曜 仙台市市民活動サポートセンター
※仮設住宅などへの出前出張の日時は、不定期のため直接菊池さんにお問い合わせください。
問い合わせ/
090-1399-2816(菊池、16:00~)
※いつでもお手本を見ながら、お手玉に取り組めるよう、1枚1500円でDVDを販売しています。DVDの問い合わせは、20世紀アーカイブ仙台022-387-0656まで

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

仙台市震災メモリアル・市民協働プロジェクト「伝える学校」

～記憶をアートで伝える～

「震災をアートで伝えること」に取り組んできた方を招き、伝えるための独自の視点を学び共有しながら、震災の当事者である私たちが「経験したことを伝える」ことについて考えていきます。

対象 どなたでも参加できます

※参加無料、申込不要

時 12月7日(土) 13:00～17:15

場所 東北学院大学土樋キャンパス 90周年記念館3階ホール(青葉区土樋1-3-1)

講師 和合亮一(詩人、プロジェクトFUKUSHIMA!代表)、長田謙一(名古屋芸術大学教授)

コーディネーター 一般社団法人MMIX Lab

問 022-214-8002

仙台市市民局市民協働推進課

お母さんのための子育て講座「子どもも大人もハッピーになる子育て」

仮設住宅などで子どもたちに遊び場を提供している「冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク」が、子育て中のママのための講座を開催します。

対象 30名 ※電話かEメールにて要予約。託児あり。参加無料

時 12月9日(月) 10:30～12:00

場所 七郷児童館

講師 金香百合氏(HEALホリスティック教育実践研究所所長)

申・問 070-6951-5991

冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

Eメール: boukenhiroba@bz01.plala.or.jp

いきいき元気スクール 参加者募集します

若林区家庭健康課では、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方の健康維持、地域との交流を目的に、区内にあるスポーツ施設を利用した運動教室を開催しています。(要申込)人数限定のため、参加希望の方はまずご相談ください。

対象 20名(借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの、おおむね50歳以上の方)

費用 無料(参加に当たっては傷害保険に加入していただきます。保険料:800円)

時 2014年1～3月(全10回)

火曜日コースと金曜日コースがあります

場所 セントラルウェルネスクラブ南小泉(送迎は要相談)

申・問 022-282-1111(内線6784)

若林区家庭健康課

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
黒松サロン	泉区のみなし仮設にお住まいの方	12月6日(金)	10:00～12:00	黒松市民センター	コミュニケーション麻雀	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
いくねおちゃっこの会	六郷地区で被災された方、元六郷地区にお住まいの方	12月11日(水)	10:00～12:00	六郷市民センター	年忘れ演奏大会	要 (電話)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
び〜ちサロン	福島から避難され主に太白区のみなし仮設にお住まいの乳幼児がいる世帯	12月18日(水)	10:00～12:00	富沢市民センター	お楽しみクリスマス会	要 (電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
団子木づくり	宮城野区のみなし仮設にお住まいの方	12月20日(金)	10:00～13:00	高砂市民センター	お正月用の団子木をつくります	要 (電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
音楽の力で元気になる!! 旭ヶ丘みんなのコンサート	旭ヶ丘市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	12月21日(土)	13:30～15:00	旭ヶ丘市民センター	復興支援コンサート	要 (電話か返信はがき)	支えあいセンター あおば 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

健康相談などのお知らせ

電話: 022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	時	時間	会場	内容	担当	問い合わせ
母と子の健康相談	12月6日(金) 12月10日(火)☆ 12月20日(金)☆	9:30～10:30 9:30～10:30 13:30～14:30	六郷保健センター 七郷保健センター 若林区役所3階	育児の心配や母と子の健康についての相談	保健師・栄養士 ☆の日は歯科衛生士もおります	家庭健康課 内線6772
子どものこころの相談室	12月24日(火)	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	児童精神科医	
健康づくり講話	12月11日(水)	13:30～14:30	若林区役所3階	白内障と黄斑変性症、手術のタイミングは?	矢端眼科 矢端先生	家庭健康課 内線6785
健康づくり相談	12月11日(水)	14:30～15:30	若林区役所3階	健康相談(要予約)	保健師、栄養士、歯科衛生士	
こころの健康相談	12月5日(木)、9日(月)、19日(木)	13:30～16:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、精神保健福祉相談員、保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時(土日祝日、12/28～1/5除く)	8:30～17:00	若林区役所1階窓口など	震災によるストレスやこころの相談		
高齢者総合相談	随時(土日祝日、12/28～1/5除く)	8:30～17:00	若林区役所1階窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	障害高齢課 内線6307
認知症の介護講座 認知症の相談会	12月12日(木)	13:30～14:30 14:30～16:00	若林区役所3階 健康教育室	介護体験談「介護を続けるための工夫」 相談会	「認知症の人と家族の会」宮城県支部、保健師	

酒は生涯の盟友

徳照寺 住職
佐藤 和丸

尾籠な話ですが、五年前、私が六十一歳の時に初めて経験したことです。ある程度の酒量を超えると排尿トラブルが生じるといふことが判明致しました。前の晩に深酒をすると、翌朝オシッコが膀胱に満タンになってもタラ〜としか出て来ないといふことです。最初の時は一体何が起こったのか全く解かりませんでした。丁度その朝は日曜日だったので、休日診療をやつてゐる病院に慌てて駆け込みました。泌尿器科のない病院でしたので外科にまはされ、その診察の順番を待つのも苦しかったです。もう帝王切開でも何でもいいからいつときも早く出して欲しくて感じてました。やつと私の名前が呼ばれ、パン〜の下腹部を医師が押しつつ（やめるよ!!）女性の看護師さんとふたことみこと（あつ、先端から管を入れて導尿だな?）と覚悟しました。途中で形が変はつたらどうしようとかいふ恥かしさなどその苦しさに吹っ飛んでをりましたア。懲りずに私はこの後二度も別の病院で導尿してもらつてゐます。「こいつ趣味で来てんぢやないか」と思はれることを恐れ飲酒を控へやうとしますが駄目。実は昨日も危なかつたのですヨ。皆さんもお酒はほど〜に。

佐藤和丸(さとつ かずまる)
若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1	2	3	4	
5		6		B
		7		8
10	11		12	
A				E
	13		14	
15			16	17
		18		19
			C	

タテのカギ

- 12月未まで、仙台市の冬を幻想的に演出する「光のページェント」。1日に3回、全消灯の後に再点灯させる「スターライト・○○○○」は必見
- JR仙台駅とおおば通駅とを結ぶ連絡通路は、仙台市を代表する歩行者用の○○道
- 2014年は午年。実は仙台市にも1949年から60年まで、太白区東郡山付近に市営の○○場がありました
- まとまりなく続く、○○○○のない話
- 復興のキャッチフレーズでも聞かれる言葉。離れがたい結びつきです
- 人気のあるタレントや運動選手など
- 「暇」を3文字で読むと?
- バター、ペーパー、カービングなどの種類が
- 天地創造以前の秩序なき状態
- 初詣ででも見られる縁起物、松川だるまの色といえば?
- 午年といえば、○○政宗公がまたがる愛馬の名前は「五島黒」

ヨコのカギ

- 帯を締めた和服の上から羽織る上着。花嫁衣裳で見られます
- 市にある石ノ森章太郎ふるさと記念館でも、「光のページェント」が冬の風物詩。こちらは1月3日まで
- ヤリ、スルメ、ダイオウなどの種類が
- 国分町通、東一番丁通に並行する○○○小路
- 敵意を持って立ち向かうのは、○○を剥く
- バレーボールでセッターが上げます
- 問題を出して答える遊び。このパズルのカギも一種でしょう
- 年取り魚として仙台の大晦日の食卓を飾る、○○○ガレイ
- サンタクロースを乗せたそりを引く動物
- 「海女」の読み方は?
- と同様に神社から受け、家庭にお正月様(御神像)をまつるのも宮城県内の伝統のひとつ
- るーぶる仙台は、仙台市交通局が運営する観光用の路線○○
- クリスマスの定番といえるチキンでも、独特の形の○○先

前回のこたえ

A モ B ミ C ジ D ガ E リ
でした。

1	2	3	4	5
イ	ン	カ	ク	ダ
5	イ	モ	ワ	タ
7	ト	ウ	ホ	ク
9	コ	チ		
11	ト	シ	12	シ
13	ミ	14	ガ	ク
15	ノ	16	ゾ	キ
17	ヤ	シ	ロ	
18	ク	19	キ	ク

編集後記

日辺のお姉さまの会話から「虹をくぐって向こうに行ってみよう」と聞かえてきました。メルヘンですね。虹の向こうは晴れなのかしら。天地真理ですよ。懐かしくて涙が出ます。(きくち)
沿岸部では津波に耐えた居り根が所々残るものの、杉などの針葉樹は枯れてしまいました。これから植樹して、元の姿に戻るのには数十年かかるとのこと。田園の森が再生されますように。(佐藤)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL: 022-390-5755
FAX: 022-390-5756 e-mail: kawara@mmmm.or.jp